

2月 1日～15日の国内外外国為替市場動向

	為替市況	主要経済指標など	主要発言など	為替レート		
				ドル円	ユーロ円	24H
08/02/01 (金)	東京はNYタイムに米雇用統計の発表を控え動意乏しくレンジ内での揉み合いに終始。欧米は米雇用統計の大幅悪化を受け一時ドル急落。しかし、ISM指数などは逆に良好で底入れ後反発へ。	・1月の失業率4.9%、同買農業部門雇用数 1.7万人、同ISM製造業指数50.7、同シガン大消費者信頼感指数78.4、12月の建設支出 1.1% ・マイクロソフトが7-に買収提案	・ムーティーズ「AMBACとMBIAの格下げ圧力が高まっている」 ・CNBC「シティやUBSなど欧米8行が米アムハック救済計画」	106.25 106.74 105.76 106.50	157.94 158.89 157.20 157.64	寄付 安値 高値 終値
08/02/04 (月)	東京は東京ならびにアジアの株価が堅調に推移したことでドル買い強まる。ただ107円には届かず。欧米は株価動向ならびに週末のG7をにらみつつ揉み合い。一方で対円などで断続的なユーロ買い。	・1月マネタリーベース 0.1% ・1月の韓国外準は2618.7億ドル ・米予算教書'09年度予算は3.1兆ドル規模	・仏当局者「G7では為替について協議へ」 ・クロスナ-FRB理事「住宅差し押さえを抑制するため一段の対応必要」 ・加政府高官「G7では利下げなどが世界経済に及ぼす影響議論」	106.57 107.10 106.56 106.71	157.74 158.71 157.74 158.24	寄付 安値 高値 終値
08/02/05 (火)	東京は円が買えない。一方、豪州利上げは予想通りながら豪ドルの買い要因に。欧米はG7に関する発言相次ぎ警戒感からユーロが買えない。ただモライシ懸念からドルも買いにくい。	・豪州が0.25%の利上げ実施 ・1月の米ISM製造業景気指数41.9 ・フィッチがMBIA格下げの可能性示唆、S&Pは大手行格下げの可能性示唆	・独財務次官「欧州はユーロだけが負担を負うことを望んでいない」 ・米財務省次官「G7において通貨はいつも焦点となる」 ・リッチモンド連銀総裁「景気後退回避へ追加利下げが必要の可能性」	106.72 107.75 106.65 106.80	158.21 158.53 156.19 156.44	寄付 安値 高値 終値
08/02/06 (水)	東京はG7における為替合意懸念や欧州系銀行への損失懸念から円買い優勢。とくにクロスで一段高。欧米は円絡みは揉み合い。一方、7日にBOEが利下げを実施するとの見方からポンドが買えない。	・12月の景気先行指数40.0 ・欧州系銀行に損失拡大懸念 ・第4四半期の米非農業部門労働生産性速報1.8%、同単位労働コスト速報2.1%	・加財務相「G7ではドルも議論か」 ・関係筋「G7声明草案で為替の文言変更せず」 ・FF連銀総裁「連銀の利下げはすべての問題解決に繋がらず」	106.53 106.80 106.18 106.56	155.91 156.53 155.15 155.92	寄付 安値 高値 終値
08/02/07 (木)	旧正月で主要アジア市場が休場となったこともあり、東京は小動き。とくに円絡みは膠着の様相。欧米はBOEの利下げ実施を逆に好感、ポンド高へ。一方、ダラス連銀総裁発言などからドル小じっかり。	・ドイツ銀行が四半期決算発表、サブプライム関連のネット評価損はなし ・BOEが政策金利を0.25%引き下げ ・ECBは政策金利を据え置き ・12月の米中古住宅販売 1.5%	・ECB総裁「成長への不透明感は著しく高い」 ・ダラス連銀総裁「追加利下げを支持する時期ではない」 ・先日発表されたISM非製造業指数が上方修正されとの噂あり	106.38 107.83 105.91 107.49	155.46 156.20 154.05 155.70	寄付 安値 高値 終値
08/02/08 (金)	東京は英財務相によるドル安懸念発言を受けて反発へ。機械受注の大幅悪化もドル高・円売りを後押し。欧米はOPEC事務局長による発言を受けてユーロが強含み。円絡みの動意は鈍くレンジ相場に終始。	・1月の機械受注 3.2% ・システム障害でTOPIXが後場の取引停止 ・G7声明草案「安定と成長を確保するため必要な措置をとることに引き続きコミット」	・G7関係筋「為替に関する文言は過去のG7ほど重要な問題にならな」 ・英財務相「多くの国がドル安を懸念しているのは間違いない」 ・OPEC事務局長「原油価格設定においてドルを放棄する可能性も」	107.32 107.74 107.15 107.32	155.37 156.18 155.05 155.72	寄付 安値 高値 終値
08/02/11 (月)	東京休場のアジアは早朝にG7を材料として若干の値動きもあったが、一時的。その後は皿相場。欧米はAIGに関する報道から円買いでスタート。しかし、軟調だった株価が反発に転じたことで円売りへ。	・G7声明「為替相場は過度の変動や無秩序な動きは望ましくない、人民元は上昇の加速が必要」(9日) ・米保険大手AIG保有のCDSの評価損が予想上回るとの一部報道あり	・ECB総裁「7日理事会で利下げを議論したと言う事実はない」 ・ルクセンブルグ首相「G7声明は米国が文言の変更同意せず」	107.45 107.48 106.33 106.97	156.09 156.30 154.33 155.31	寄付 安値 高値 終値
08/02/12 (火)	東京はSL連銀総裁の強気コメントに加え、日経平均が予想以上に底堅く推移したことで円売り優勢。欧米はバフェット氏の提案や大手金融機関6社のプロジェクトなどを好感した動きから円は独歩安の様相に。	・2月の独ZEW景気期待指数 39.5 ・米投資家バフェット氏がモライシ3社に対し8000億ドル相当の債務再保証を提案 ・米金融機関大手6社が「住宅差し押さえの30日間凍結プロジェクト」発表	・SL連銀総裁「インフレ期待はほとんど変化していない」 ・米財務長官「政府が住宅ローンを買い上げる余地なし」 ・SF連銀総裁「米経済はおそらく景気後退に陥らない」	106.87 107.54 106.81 107.32	154.96 157.04 154.87 156.52	寄付 安値 高値 終値
08/02/13 (水)	東京は旧正月明けのアジア株式が軟調に推移したことを嫌気した円買い先行。一時107円割れも。欧米は英利下げが遠のいたとの見方からポンドが強含み。ドルは米経済資料の良好さなど好感、強含み。	・12月の経常収支1兆6972億円、1月の国内企業物価指数0.2% ・独IGマールによるスタートの一部報道 ・BOEインフレ報告「CPIは今年半ばまでに3%近くまで上昇すると予想」 ・1月の米小売売上高0.3%	・金融庁「12月末の国内預金取扱機関のサブプライム関連商品の保有は1.5兆円、損失は6千億円」 ・米財務長官「住宅市場低迷の経済の影響全般への影響、市場は完全に消化していない」	107.35 108.38 106.99 108.34	156.52 157.89 155.83 157.89	寄付 安値 高値 終値
08/02/14 (木)	東京は米債の償還にともなう円買いが円高に優勢。しかし株価が500円を超える上昇となり、行って来い。欧米は米貿易赤字の改善を好感した動きが先行するも、ムーティーズの報道などもあり一転ドル急落へ。	・第4四半期実質GDP0.9%、12月の鉱工業生産速報値1.4% ・第4四半期独GDP0.3%、同ユーロ圏GDP0.4% ・12月の米貿易収支 588億ドル、対日65.9億ドル、対中187.9億ドル	・FRB議長「FOMCの経済見通しは11月から下方修正」 ・独連銀総裁「インフレリスクの正しい認識を反映していない」 ・ムーティーズ「FGICを格下げ、さらに格下げ方向で検討」	108.28 108.62 107.76 107.84	157.60 158.48 157.34 157.92	寄付 安値 高値 終値
08/02/15 (金)	東京は日銀会合をにらみつつ円がじり安。前FRB議長の発言聞かれるなか108円台へ。欧米は2月の米経済指標データがともに極端に悪くドル売り要因に。ただ終盤は調整的な買戻しも。	・日銀が政策金利の据え置きを決定 ・1月の米鉱工業生産0.1%、同設備稼働率81.5、2月のNY連銀製造業指数 11.72、同シガン大消費者信頼感指数69.6、12月の対米証券投資トータル604億ドルの買い越し	・前FRB議長「住宅価格が底を打つには長い道のり」 ・独財務相「市場の混乱は今年一杯続く、世界経済にリスク波及も」 ・ECB総裁「欧州経済には不透明感が漂う」	107.80 108.32 107.27 107.83	157.84 158.89 157.52 158.32	寄付 安値 高値 終値

* ご質問などはEメールにてお願い致します。アドレス info@fx-newsletter.com まで